

令和 **6** 年度



普及活動成果集

久留米 普及指導センター



はじめに

県では、令和4年に今後5年間の本県農業の道しるべとなる「福岡県農林水産振興基本計画」を策定し、その達成に向けて各種施策を展開しています。

久留米普及指導センターでは、この基本計画に則して普及指導計画を定め、市町、農業協同組合をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザー等と連携して普及活動を展開しています。



令和6年度は、「きらりと光る 未来へつづく 久留米の農業」をスローガンに掲げ、2つのプロジェクト課題と14の係課題を設定し、普及活動に取り組んできました。

しかし、農業を取り巻く情勢を見ますと、担い手の減少や高齢化に加え、豪雨などの自然災害の頻発、さらに、肥料・農薬・燃料といった資材費や輸送費が高止まりするなど、農業生産にとっては非常に厳しい状況が続いています。

このため、現場の普及活動においても、気象変動に対応した技術の確立や、経営相談会の開催など、生産と経営の安定化に向けて全力で取り組んで参りました。加えて、今後の経営発展に資する「スマート農業」の推進や、担い手の確保・育成対策も実施しました。

この冊子は、これまでの取組みにより令和6年度までに一定の成果が上がったものを取りまとめたものです。いずれも農業者リーダーの皆様や、市町・農業協同組合など関係機関団体との連携活動によって成し得たものです。ここに改めてお礼を申し上げます。

当センターは、今後とも農業者の皆さんの経営の発展、久留米地域農業・農村の振興に向けて所員一丸となって取り組んで参りますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和7年3月

朝倉農林事務所久留米普及指導センター長 川口 哲也

目次

1 普及活動の成果

(1) 農業DXを推進し、生産・販売力を強化	1
(2) 「地域ビジョン」に基づく園芸農業担い手の強化・育成	2
(3) 女性農業者の活躍を推進	3
(4) 大豆「ふくよかまる」及び麦類の安定生産	4
(5) アスパラガス産地の育成	5
(6) イチゴ新規栽培者の育成	6
(7) 花き・花木の次世代を担う人材の育成	7
(8) ナシ・ブドウの生産力強化と安全安心な産地づくり	8
(9) 黒毛和牛繁殖雌牛牛群強化の取組み	9

2 トピックス（注目の活動や技術の紹介）

(1) 水稻の可変施肥の試験を実施	10
(2) 葉菜類の夏季安定生産にむけて	11
(3) 信頼されるトマト産地を目指して	11
(4) 新規就農者グループ自主勉強会を支援	12
(5) 地元の花で観光客をおもてなし	12
(6) 土づくりによるブドウの健全な樹体づくり・安定生産を目指して	13
(7) 乳質改善のための講習会を開催	13

3 参考資料

(1) 受賞実績	14
(2) 令和6年の気象	17
(3) 主な展示ほ概要	18
(4) 普及指導センター活動情報一覧	20
(5) 普及指導センターの活動体制	21

1 普及活動の成果

1 農業DXを推進し、生産・販売力を強化

実施期間：令和6～8年度

高齢化や後継者不足が進行する中、管内農業の生産力を維持するためには、スマート農業機器等の先端技術を活用した生産の効率化や省力化が不可欠です。

そこで、農業DXを推進し、スマート農業技術による生産力強化とマーケットインの視点による販売力強化を図るため、デジタルデータ分析による生産性向上支援やスマート農業機器の実証試験等に取り組みました。また、得られた結果をもとに、スマート農業技術の活用事例集を作成しました。

対象の概況

支援対象	対象戸数 (うち重点)
JAにじ・JA福岡大城(城島) イチゴ部会	107戸 (22戸)
JAみい 生産管理システム 導入部会(コマツナ, チゲンサイ 等)	187戸 (50戸)
JAにじ カキ・ブドウ・ナシ部会	719戸 (33戸)
管内水田農業重点対象	4経営体
畜産農家(酪農・繁殖)	79戸 (3戸)
JAくるめ コマツナ部会	28戸 (5戸)

活動の内容

(1) スマート農業技術による生産力強化

- ・環境制御装置を活用したイチゴの生産技術向上支援
- ・生産管理システム「あい作」による葉菜類の防除履歴のデジタル化と栽培技術支援
- ・気象観測装置によるデータ収集と果樹栽培支援アプリ導入支援
- ・衛星画像データを活用した水稻可変施肥栽培の実証試験
- ・畜産モニタリング装置の試験導入支援

(2) マーケットインの視点による販売力強化

- ・「あい作」を用いたコマツナ出荷量予測の実証

(3) 関係機関の農業DX情報共有

- ・スマート農業技術活用事例集の作成

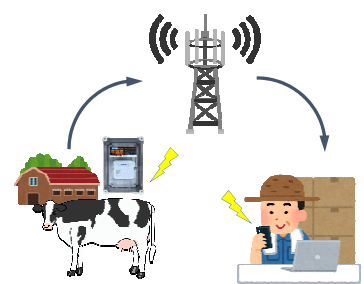
成果

(1) スマート農業技術による生産力強化

- ・イチゴの生育状況とハウス内環境データに関する研修会の開催
- ・デジタル化された葉菜類の防除履歴の分析と優良事例による効果的な防除体系の提案
- ・うきは市内果樹園地の気象データ収集と果樹栽培支援アプリの周知
- ・推定地力データに基づく水稻可変施肥栽培による生育の均一化を検討(p10参照)
- ・分娩監視装置「牛温恵」の試験導入を支援し、頻繁な見回りが不要となり省力・軽労化が図られたことで、1戸が装置を導入



イチゴ生育調査



分娩監視装置

(2) マーケットインの視点による販売力強化

- ・予想出荷量のデータ収集体制構築と出荷予測の試験運用の開始

(3) 関係機関の農業DX情報共有

- ・今年度の活動で得られた結果をもとにスマート農業技術の活用事例集を作成

今後の取り組み

引き続き、スマート農業技術の効果的な活用方法の提案や現地実証に取り組み、農業DXの推進を図ります。

2 「地域ビジョン」に基づく園芸農業担い手の強化・育成

実施期間：令和5～7年度

野菜や花などの施設園芸や果樹生産が盛んなJAにじ管内でも、生産者の高齢化や担い手の減少が進行しています。

そこで、関係機関と協力し、令和4年度に策定した「地域ビジョン」の一つの項目である「担い手支援」に重点化し、園芸農業の担い手の強化・育成に取り組みました。

対象の概況

先進的・中核的担い手	8戸
新規就農者 (技術研修修了者)	8戸(11名)
JAにじ管内の主な 園芸生産部会	トマト (48) イチゴ (45) 花き (29) カキ (470) ブドウ (209)
() 内は部会員数	

活動の内容

(1) 先進的・中核的担い手の強化

- ・ 個別改善項目に沿った支援を実施
- ・ 新たな労力確保の手段であるアルバイトアプリについて、利用者への聴き取り調査を実施
- ・ 調査の結果をもとにチラシを作成し、講習会等で周知

(2) 新たな担い手の育成・確保

- ・ 関係機関と協議し、研修受入体制を再構築
- ・ 技術研修修了者の早期経営確立支援



アルバイトアプリについて説明

現地指導の様子

成果

(1) 先進的・中核的担い手の強化

- ・ 3戸が所得目標を達成
- ・ 3戸の生産者が新たにアルバイトアプリを活用

(2) 新たな担い手の育成・確保

- ・ 新たな研修受入体制を整備
- ・ トマト、果樹で新たに3戸が就農
- ・ 1戸が青年等就農計画の年度目標を達成



研修生に対する講義の様子

今後の取り組み

技術・経営支援を継続して行い、担い手の目標達成を支援していきます。

加えて、労力確保の手段としてアルバイトアプリの更なる推進を図ります。

新たな担い手となる就農希望者のための研修受入体制の検証を行い、経営主として自立できるための体制を作ります。既に就農している新規就農者については、栽培技術を中心に引き続き支援します。

3

地域振興課 地域係

女性農業者の活躍を推進

実施期間：令和6～7年度

農業従事者に占める女性の割合は4割を超えており、女性農業者は地域農業において重要な役割を果たしています。

そこで、女性農業者の活躍や経営参画を進めるため、研修会の開催や行動計画の策定を支援しました。

対象の概況

女性農業者	66人
・女性農村アドバイザー	15人
・女性農村アドバイザーOB	36人
・アグリレディースまどか	15人

活動の内容

女性農業者の育成

- | | |
|-----------|----|
| ・経営参画研修会 | 3回 |
| ・行動計画策定支援 | 4回 |
| ・起業研修会 | 3回 |
| ・6次化個別支援 | 2回 |



起業研修会



6次化専門家派遣

成果

女性農業者の育成

- ・女性農業者の意見を取り入れながら、各種研修会や個別支援を実施
- ・その結果、経営参画の意識が高まり、4名の女性農業者が行動計画を策定し、中長期の行動計画が明確化
- ・研修会等を通じて女性農業者同士の交流が深まる



農機具メーカーでの実地研修

今後の取り組み

女性農業者の支援のため、引き続き研修会を開催します。

また、行動計画の実践に向けて個別支援を実施します。

大豆「ふくよかまる」及び麦類の安定生産

実施期間：令和5～7年度

管内の耕地面積のうち水田が約8割を占めており、米、麦類、大豆が栽培されています。実需者からは生産量・品質の安定が強く求められていますが、特に大豆及び麦類については、近年の天候不順により収量が不安定となっています。

このため、大豆及び麦類については、基本技術（適期播種、排水対策、土づくり等）や硬質小麦のタンパク質含有率向上技術等の指導を徹底し、収量・品質の高位安定を目指しました。

対象の概況

令和6年産作付け面積（ha）

大豆	1,545
麦類 (うち硬質小麦)	4,953 (1,143)

活動の内容

(1) 大豆「ふくよかまる」の安定生産

- ・栽培展示ほの設置（適期播種、収量）
- ・栽培講習会及び現地指導
- ・栽培情報の提供
- ・わらすき込み推進

(2) 麦類の安定生産

- ・栽培展示ほの設置
- ・栽培講習会及び現地指導
- ・栽培情報の提供
- ・品質分析及び個別指導

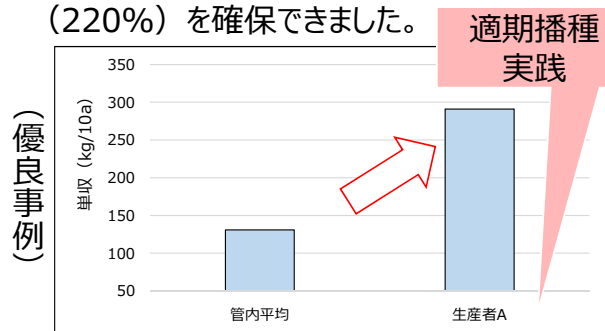


麦類の栽培講習会

成果

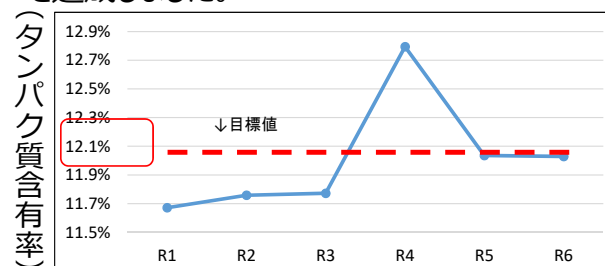
(1) 大豆「ふくよかまる」の安定生産

部分浅耕一工程播種実演会や講習会で適期播種への意識改善を図りました。その結果、適期播種（7/5～20播種）を実践した生産者は管内平均を大きく上回る収量（220%）を確保できました。



(2) 麦類の安定生産

穂揃期追肥講習会で、追肥の必要性や適切なタイミングを周知し、品質改善を図りました。その結果、3年連続で目標値の12.0%を達成しました。



今後の取り組み

大豆では、播種時期と収量性の分析を行い講習会等で周知することで、更なる適期播種率と収量性の向上を目指します。

麦類では、品質分析に基づく目標値未達成者への重点指導等により、収量・品質の高位安定を目指します。

5

野菜花き課 野菜第一係

アスパラガス産地の育成

実施期間：令和4～6年度

近年の葉菜類の単価低迷や頻発する豪雨被害をうけて、単価が比較的安定しており水害の影響も受けにくいアスパラガスを、補完品目として導入する生産者が増えています。

そこで、JAと連携して部会への栽培講習会や個別巡回指導を行うとともに、補完品目として新規に導入した個別農家を組織化し、現地検討会を開催することで早期の技術習得を支援しました。

対象の概況

JAくるめ アスパラガス部会	8戸 170a
みい地区 新規アスパラガス 栽培者	13戸 213a

活動の内容

(1) 収量向上

- ・栽培管理講習会
- ・施肥設計検討会
- ・重点農家個別指導
- ・立茎調査
- ・実証ほの設置（遮熱資材）

(2) 新植者の生産安定

- ・現地検討会
- ・重点農家個別指導
- ・実証ほの設置（珪鉄によるpH維持）
- ・導入事例調査
- ・雇成型一重保温作型マニュアルの作成



栽培講習会

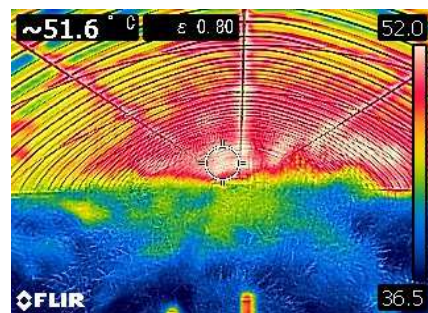
成果

(1) 収量向上

- ・単収3.0t/10a達成農家数 1戸

(2) 新植者の生産安定

- ・最適立茎開始農家数 9戸
- ・単収2.5t/10a達成農家数 4戸



実証ほの設置

(遮熱資材を用いたハウス内温度)

アスパラガス 一重保温作型
栽培マニュアル令和6年3月(初版)
久留米普及指導センター

雇成型一重保温作型マニュアル

今後の取り組み

近年、夏季の記録的な高温による生育不良や収量・品質の低下、病害虫の多発などの影響が大きいことから、夏季高温対策に重点を置き支援を行っていきます。

イチゴ新規栽培者の育成

実施期間：令和6～8年度

近年、資材費等の高騰により、経費が増加しています。特に、新規栽培者は収量が低い傾向にあるため、経営安定に向け、収量向上が課題となっています。

そのため、新規栽培者に対し、個別指導や新規栽培者学習会を実施するとともに、収量向上を目指している重点指導対象者に対し、地域の熟練生産者である「あまおうの匠」と連携した指導を行うことで、栽培技術の早期習得を図りました。

対象の概況

新規栽培者 (R3～R6年度新規栽培者)	23戸
重点指導対象者	17戸

活動の内容

(1) 新規栽培者の育成

- ・ 新規栽培者学習会
- ・ 個別巡回支援
- ・ チェックシートを活用した支援

(2) 重点指導対象者の育成

- ・ 栽培講習会の実施
- ・ 個別巡回支援
- ・ 匠からの栽培指導支援
- ・ 関係機関との協議



新規栽培者学習会

成果

(1) 新規栽培者の育成

- ・ 関係機関と連携し、全戸で目標を設定、個別の課題を把握
- ・ 目標達成に向けて新規栽培者学習会による知識習得を支援
- ・ 個別巡回やチェックシート活用による栽培技術支援を実施

(2) 重点指導対象者の育成

- ・ 匠や関係機関と連携し、全戸で目標単収を設定、個別課題を把握
- ・ 個別巡回や匠からの栽培指導、スマート機器を活用した栽培管理の動画撮影を実施

①親株	評価基準	評価時期	4点	0点	評価
10～6月	1 定植時期 親株は年内に定植しているか	11月中旬	11月中旬まで	1月以降	/4点
	2 肥培時期 適切な肥培管理が出来ているか (基肥・追肥2回(3月上旬、4月中旬))	4月下旬	追肥2回	肥料なし	/4点
	3 子苗の確保 子苗は十分に確保出来ているか	6月中旬	定植本数 130%以上	子苗が 足りない	/4点
合計					/20点
1～2月	5 病害虫発生程度 うどんこ病、灰色かび病、ハダニ、アブラムシ、アザミワタ類	2月上旬	別紙		/4点
合計					/20点
合計点					/100点

いちご栽培チェックシート（抜粋）



匠からの栽培指導

今後の取り組み

イチゴ産地の発展に向けて、引き続き個別巡回による栽培技術支援やチェックシートによる次年度の課題整理、匠と連携した支援を行っていきます。

花き・花木の次世代を担う人材の育成

実施期間：令和6～令和8年度

花き生産の担い手確保のため、市町・JA等の関係機関と連携して、新規花き栽培を推進するとともに、新規栽培者に対して技術、経営支援を行いました。

地域の中核となる生産者に対しては、個別課題の改善に向けて重点支援を行いました。

対象の概況

おおむね50歳未満の若手生産者59名

組織名	人数
JAくるめ切花若手生産者	5
JAくるめ鉢花若手生産者	5
JAみい切花若手生産者	10
JAにじコンテナ部会青年部	10
JAにじ鉢物部会青年部	8
JAにじ花部会若手生産者	6
その他若手生産者	15

活動の内容

(1) 担い手の確保

- ・新規花き栽培推進会議（3農振協合同）
- ・新規花き栽培推進（シテップウリ、ケイトウ、切り枝）
- ・新規花き栽培者の技術・経営支援
- ・経営研修会の開催

(2) 担い手の育成

- ・個別課題支援
- ・試験ほの設置（トルコギキョウ施肥改善）



新規花き栽培推進会議
(新規作付推進品目のシテップウリの現地視察)

成果

(1) 担い手の確保

- ・新規花き担い手数（親元就農含む）6名
うち1名は野菜生産者で、夏場の補完品目としてケイトウを新規に栽培



新規作付けしたケイトウの圃場

(2) 担い手の育成

- ・個別課題改善者数 3名
地域の中核となる若手生産者の個別課題に対して重点支援を行った結果、3名が改善目標を達成



若手生産者の個別支援（電照ギク）

今後の取り組み

新規花き生産者向け栽培品目の検討および作付推進を図るとともに、地域の中核となる若手生産者の個別課題解決に向け、引き続き重点支援を行います。

ナシ・ブドウの生産力強化と安全安心な産地づくり

実施期間：令和6～8年度

管内はナシ・ブドウの主産地であり、生産者の高い技術力により高品質果実の生産が行われています。普及指導センターでは、県オリジナル品種・系統を中心とした栽培技術指導を行い、両品目の安定生産・生産力強化を図りました。さらに、農作業事故や農薬の誤使用を防止し、安心して作り続けられる産地づくりを目指して、安全安心な農業経営の啓発に取り組みました。

対象の概況

	生産者数 (人)	栽培面積 (ha)
JAにしなし部会	45	20
JAにしぶどう部会	205	94

* R5年度実績

活動の内容

(1) 新品種・系統の生産拡大

- ・ 栽培技術講習会
- ・ 関係機関との防除暦検討会
- ・ 新品種、系統の展示ほ設置
ナシ「玉水」
ブドウ「優良系巨峰」
- ・ ナシ「玉水」研修会
- ・ ブドウ「優良系巨峰」の事例紹介

(2) 安全安心生産の意識改革

- ・ 関係機関との検討会
- ・ GAP勉強会



ブドウ「優良系巨峰」の事例紹介

成果

(1) 新品種・系統の生産拡大

- ・ ナシ「玉水」研修会やブドウ「優良系巨峰」の事例紹介により、生産者の技術が向上、新系統苗木の導入が拡大

ナシ「玉水」生産数量： 2,276kg
(前年比496%)

ブドウ「優良系巨峰」： 今後導入予定

(2) 安全安心生産の意識改革

- ・ 関係機関との連携によりGAP勉強会を開催し、生産者の安全安心生産への意識が向上

GAP点検シート実践経営体：34戸



着色が優れる「優良系巨峰」の導入事例
(左：優良系巨峰 右：通常の巨峰)

今後の取り組み

引き続き新品種・系統の生産拡大を図り、生産者ニーズに応じた展示ほの設置、研修会や事例紹介の内容拡充に取り組みます。また、農薬安全使用や農作業事故防止に関するリーフレットの活用や積極的な周知等、GAPへの取り組み支援を強化していきます。

黒毛和牛繁殖雌牛牛群強化の取組み

実施期間：令和4～6年度

久留米地域和牛改良組合は、H30.4月に（公社）全国和牛登録協会から和牛改良組合として承認され、優良種雄牛を活用し、和牛繁殖雌牛牛群の改良を行ってきました。

特に、母牛の能力が一定水準以上とされる「本原登録」牛や、更に実績が加味される「高等登録」牛の頭数増を目標とし、発育強化を図りました。

対象の概況

久留米地域和牛改良組合組合員 15戸

成牛	396頭
育成牛	115頭
肥育牛	418頭

活動の内容

(1) 牛群構成の強化

- ・ゲノミック評価等結果分析
- ・講習会

(2) 飼養管理技術の向上

- ・発育調査
- ・飼養管理等改善指導
- ・登録時点発育成績分析指導

(3) 共進会への出品支援

- ・出品牛発育強化や調教・手入れの指導
- ・出品者農場相互巡回



牛群構成強化のための講習会

成果

(1) 本原登録頭数の増加（累計：頭）

～R3	R4	R5	R6
39	57	71	83

(2) 高等登録頭数の増加(頭)

R3	R4	R5	R6	計
4	—	5	2	11

(3) 福岡県肉用種牛共進会出品

- ・R元年度第1回目から組織として連続出品、R6年度は出品予定総数のうち、当組合からの出品は約半数を占め、席卷（R6年度は家畜伝染病流行に伴い開催中止）



福岡県肉用種牛共進会
出品者農場相互巡回

今後の取組み

家畜伝染病の早期鎮静化を第一に、出荷自粛により受けた諸影響への対応支援を行います。

家畜伝染病に伴う情勢の見通しが見えない中でも、先を見据えた活動として、引き続きゲノミック評価を活用し、効率的な牛群改良を推進します。

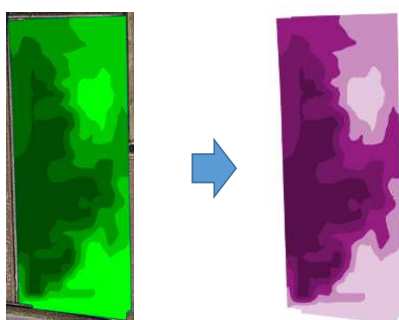
2 トピックス（注目の活動や技術の紹介）

No.1 水稲の可変施肥の試験を実施

地域振興課 水田農業係

◆取り組みの概要

水稲（ヒノカリ）における可変施肥の試験を実施しました。可変施肥は必要な場所に必要な量の肥料を散布し、肥料の効率的な利用を図るスマート技術で、近年の資材高騰や環境負荷低減への対策として期待されています。今回の試験では、ザルビオフィールドマネージャーを活用し、衛星画像データから推定された地力に応じてブロードキャスターで可変施肥した場合の生育・収量の評価を行いました。



ザルビオにより自動作成される
地力マップ（左）と可変施肥マップ（右）



可変施肥ブロードキャスター

◎生育の均一化

可変施肥により、穂数の均一化や地力が低い地点の生育改善が見られました。

さらに、慣行施肥と比べて可変施肥では倒伏が軽減され、収穫スピードを維持できるようになりました。

◎収量・品質

可変施肥では、慣行より2割少ない施肥量で、収量は同等でした。

品質は慣行施肥が1～2等（充実不足）に対し、可変施肥が2等（青未熟、充実不足）となりました。2等となった要因は、施肥量が少ないことに伴う肥料切れが考えられ、適正な施肥量の検討が今後の課題です。

【総合評価】

生育が均一になり倒伏を軽減できるため、収穫作業がスムーズになります。これにより、作業計画の進捗管理が容易になるほか、借地に初めて作付けする場合などに有効な技術だと考えられます。



生育均一化と倒伏の軽減（左：慣行区、右：可変施肥区）

◆今後の取り組み

可変施肥については、収量・品質ともに低下しない適正な施肥体系を引き続き検証していきます。また、その他の経営改善に貢献できるスマート農業技術についても試験や検証を行っていきます。

No.2 葉菜類の夏季安定生産にむけて

野菜花き課 野菜第一係

◆取り組みの概要

葉菜類では、夏季の記録的な高温による生育不良や品質低下等の影響が出ており、安定生産のための対策が急務となっています。このため、近年の高温・乾燥に対応する「品種・作型」の検討、ハウス内の昇温を抑制する「遮光・遮熱資材」や植物の健全さやストレス耐性に寄与するとされる「バイオスティミュラント資材」の活用方法などについて実証試験を行っています。



慣行品種と高温対策品種



バイオスティミュラント資材の灌注

◆今後の取り組み

今後も各種資材や技術を活用し、葉菜類の夏季安定生産に向けて支援を行っていきます。

No.3 信頼されるトマト産地を目指して

野菜花き課 野菜第二係

◆取り組みの概要

JAくるめトマト部会では、安全・安心な農産物生産および信頼される産地の確立を目指して県GAPの認証取得に取り組みました。

普及指導センターから部会全体への点検項目の説明を行い、JAと協力して現地審査の予行巡回を実施して改善を支援しました。その結果、令和6年11月29日に県GAP認証を取得することができました。



県GAP現地審査の様子



県GAP認定証

◆今後の取り組み

信頼されるトマト産地の更なる発展に向けて、部会員の規模拡大と新規栽培者の栽培技術確立および経営安定に向けた支援を行っていきます。

No.4 新規就農者グループ^o自主勉強会を支援

地域振興課 地域係

◆取り組みの概要

久留米普及指導センター、久留米市およびJAくめで構成する久留米市農業振興協議会（以下、「農振協」）では、新規就農者の経営確立に向けた支援を行っています。

その中で、「新規就農者同士のつながりが欲しい」との声を受け、R5年6月に農振協が発起人となり、新規就農者の自主活動グループ「NEW AGRI KURUME（ニューアグリクルメ）」を設立しました。

今年度は、活動したい内容のアンケートを取り、要望の多かった「メンバーほ場の巡回」と「ビジネスプラン発表会」を11月に行いました。

ほ場巡回では、効率的な作業の工夫について情報交換ができました。発表会では、事前に作成したビジネスプランを発表し、メンバーや認定農業者からアドバイスを受けました。メンバーからは「ビジネスプランが甘かったが、アドバイスをもらい参考になった」との意見が聞かれ、有意義な会となりました。



ビジネスプラン発表会

◆今後の取り組み

「NEW AGRI KURUME」では、新規会員を募集しています！グループ活動を通じて新規就農者同士のネットワーク構築や技術・経営の早期確立を目指していきます。

No.5 地元の花で観光客をおもてなし

野菜花き課 花き係

◆取り組みの概要

管内は、カーネーション、トルコギキョウ、バラ等の県内有数の産地であり、花きの生産が盛んに行われています。一方、花きの消費量（年間購入金額、購入頻度）は年々減少傾向となっています。そこで、JAにじ管内農業振興協議会花き花木研究会（市、JA、普及センター）は、11月22日（いい夫婦の日）に合わせて、JR田主丸駅内で、地元産の花を使ったフラワースポットを設置して花きの魅力を発信しました。



JA田主丸駅内に設置したフラワースポット



飾花を觀賞する観光客の様子

◆今後の取り組み

関係機関と連携して花きの生産振興を行い、消費拡大に繋がる取り組みを行っています。

No.6 土づくりによるブドウの健全な 樹体づくり・安定生産を目指して

果樹畜産課 果樹係

◆取り組みの概要

夏季の高温乾燥といった厳しい気象条件が続く中、果樹の安定生産を行うためには、樹体の回復・強化につながる収穫後の「土づくり」が重要になります。

そこで、JAにしぶどう部会と連携しブドウの土づくり講習会を開催しました。本講習会では、土壌診断の推奨、生理障害対策に関する説明や掘削機を用いた部分深耕の実演を行いました。また、参加した生産者との活発な意見交換も行われ、土づくりに対する関心・意欲を高める有意義な講習会となりました。



部分深耕の実演



高温による日焼け果

◆今後の取り組み

今後も講習会や現地指導を通じて、気候変動に左右されない高品質果実の安定生産に向けた支援を続けていきます。

No.7 乳質改善のための講習会を開催

果樹畜産課 畜産係

◆取り組みの概要

乳質改善は酪農経営にとって永遠のテーマとされる課題です。しかし、朝夕の搾乳時間はいずれの農場も同じなため、酪農家は、他の農場ではどのような搾乳衛生に取り組んでいるか判らない状況でした。

そこで、ふくおか県酪協久留米支所青年部員の農場で搾乳立会を行い、搾乳手順や重視している点を調査し、その結果をもとに部員を対象とした講習会を開催しました。ここでは調査報告に加え、乳質優良な部員が搾乳手法を動画を用いて自ら解説、部員同士で活発な意見交換が行われたことで、乳質改善に対する意識向上が図られました。



搾乳立会調査



搾乳手法を解説する部員

◆今後の取り組み

引き続き乳質改善にむけて講習会の開催や個別巡回指導を行い、若手酪農家の基礎技術研鑽を行います。

3 参考資料

(1) 受賞実績

**表彰名：第52回（令和5年度）全国豆類経営改善共励会
大豆 家族経営の部「九州農政局長賞」**
受賞者：江頭 和彦（久留米市）

令和5年度全国豆類経営改善共励会 家族経営の部において、久留米市の江頭和彦氏が九州農政局長賞を受賞されました。

江頭氏は部分浅耕一工程播種技術を導入した適期播種に向けた取り組み、適期防除や雑草対策として除草剤・中耕培土・手取りの体系処理を行っています。その結果、県平均単収153%で高収量となりました。

加えて、自動操舵システムとドローンを導入したスマート農業技術の活用や作業の省力化が評価されました。

さらに、近隣農家の収穫作業の受託等、地域農業にも貢献しています。

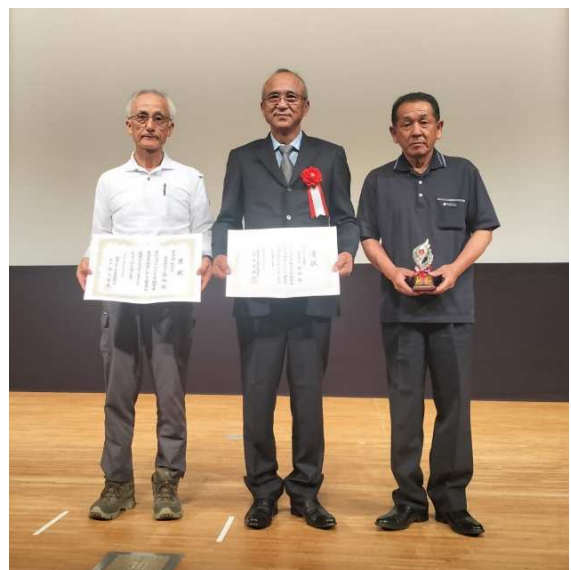


**表彰名：令和6年度福岡県麦作共励会 集団の部
優良賞（福岡県米麦品質改善協会会長賞）**
受賞者：農事組合法人 新田

令和6年度福岡県麦作共励会 集団の部において、大刀洗町の農事組合法人新田が優良賞（福岡県米麦品質改善協会会長賞）を受賞されました。

当法人はビール用大麦を実需者の望む品質で提供するため、麦踏みや土入れ等の基本技術の徹底、さらに、近年多発しているオオムギ網斑病の防除を出穂前の3月に実施するなど適宜、効果的な防除を実践しており、地域平均を上回る収量（170%）を確保しております。

以上の収量及び品質向上への取り組みが評価されました。



**表彰名：第51回九州酪農青年女性酪農発表大会
酪農経営発表の部 審査委員長特別賞
受賞者：田中 敏雄（久留米市）**

第51回九州酪農青年女性酪農発表大会酪農経営発表の部において、久留米市の田中敏雄氏が審査委員長特別賞を受賞されました。

田中氏は乳牛を約150頭を飼養しており、暑熱対策を含め牛舎環境の改善やゲノム分析を活用した牛群改良等に取り組み、生産性の向上を図っています。

さらに、飼料収穫作業受託組織の構成員として、地域の酪農家の良質飼料自給率向上に寄与し、経営費の主を占める飼料費削減を図っていることを評価され、今回の受賞となりました。



**表彰名：福岡県農業指導功労者表彰
受賞者：尾形 浩文（久留米市）**

令和6年度福岡県青年農業者会議において、久留米市の尾形浩文氏が農業指導功労表彰を受賞されました。

尾形氏は、施設・露地野菜の他、加工用ジャガイモの大規模生産に取り組み、令和4年には経営を法人化して後継者へ経営移譲するなど、地域のモデルとなる戦略的な農業経営を展開されています。

平成21年度には福岡県指導農業士に認定、令和元年から3年度には県指導農業士会の副会長を歴任され、多くの就農希望者や農林水産省職員、JA職員の研修を受け入れる等、幅広く担い手育成に尽力されたことが評価されました。



表彰名：令和6年度職域表彰「グッドパフォーマンス賞」

表彰事項：豪雨災害やコロナ禍等に対する花き産地の競争力強化支援

受賞者：朝倉農林事務所久留米普及指導センター

近年の豪雨災害、資材・燃油費等の高騰、加えてコロナ禍での花き需要の低迷などによる収益悪化で、花き生産者の経営は厳しい状況にありました。

久留米普及指導センターは、関係機関と連携し、連作障害対策や新技術導入などによる安定生産の確立及び生産者の経営改善を通じた産地拡大、オリジナル品種のブランド化、花き消費促進のための公共施設等での飾花活動を行いました。

これらの取組みの結果、秋出しトルコギキョウの出荷量が増加するなど、花き産地の競争力強化に貢献した点が評価されました。



普及指導センター野菜花き課花き係

表彰事業名	賞区分	受賞者	市町
令和6年度福岡県花き品評会(産物の部)バラ	農産局長賞	檜原 道博	久留米市
令和6年度福岡県花き品評会(産物の部)ユーカリ	福岡県知事賞	佐々木 クニエ	久留米市
令和6年度福岡県花き品評会(産物の部)オリエンタルユリ	福岡県知事賞	柳 壽幸	うきは市
令和6年度福岡県花き品評会(産物の部)ガーベラ	福岡県知事賞	梅田 康彦	久留米市
第60回福岡県肉畜共進会(和牛の部)	銀賞	池田牧場	朝倉市
第60回福岡県肉畜共進会(和牛の部)	銅賞	(株)堀内牧場	朝倉市
第60回福岡県肉畜共進会(和牛の部)	銅賞	浦 浩二	朝倉市
第60回福岡県肉畜共進会(国産牛の部)	銀賞	中村 明子	朝倉市
福岡県肉用牛生産者の会共励会(令和6年度第3回)	GC賞	浅野 典子	久留米市
福岡県肉用牛生産者の会共励会(令和6年度第3回)	銀賞	浅野 一美	久留米市
第15回JA筑前あさくら・JA筑紫肥育牛部会合同枝肉勉強会	最優秀賞	(株)堀内牧場	朝倉市

(2) 令和6年の気象

●気象概況

- 平均気温：18.6℃（平年16.8℃）
 - ◆3月下旬～5月上旬、7月中旬～11月中旬：平年より高温
 - ◆特に7月22日の梅雨明け以降：平年より高く、高い期間が継続
- 年間降水量：2,072mm（平年1,938mm）
 - ◆5月中旬から下旬にかけて12日間降雨無し
 - ◆梅雨入り後は断続的に降雨があり、7月1日および7月15日には100 mmを超える大雨
 - ◆梅雨明け後は、少雨・乾燥傾向で推移したが、8月下旬の台風時および11月上旬に大雨
- 日照時間は2,075時間（平年2,045時間）

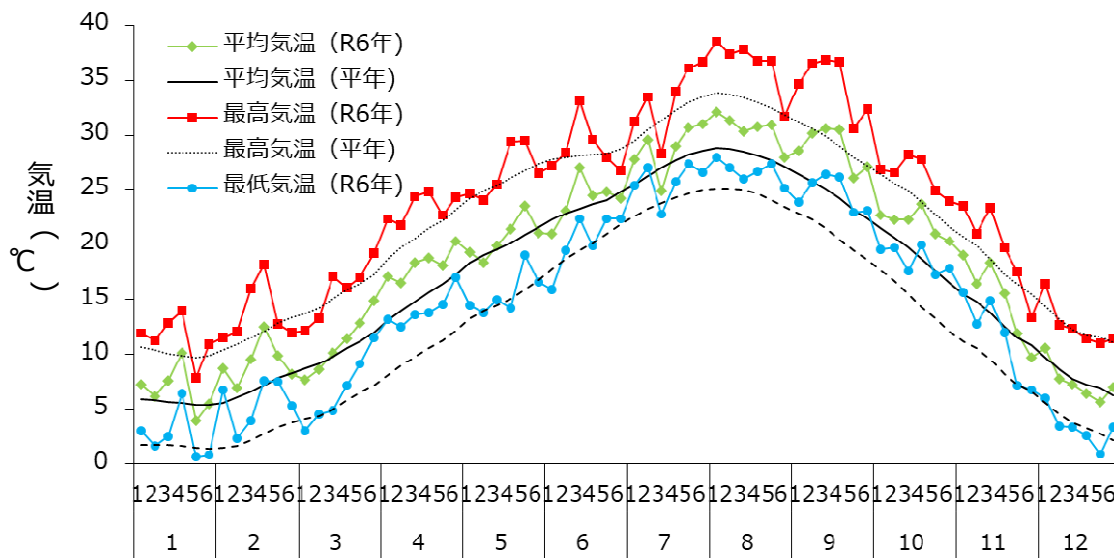


図1 気温の推移

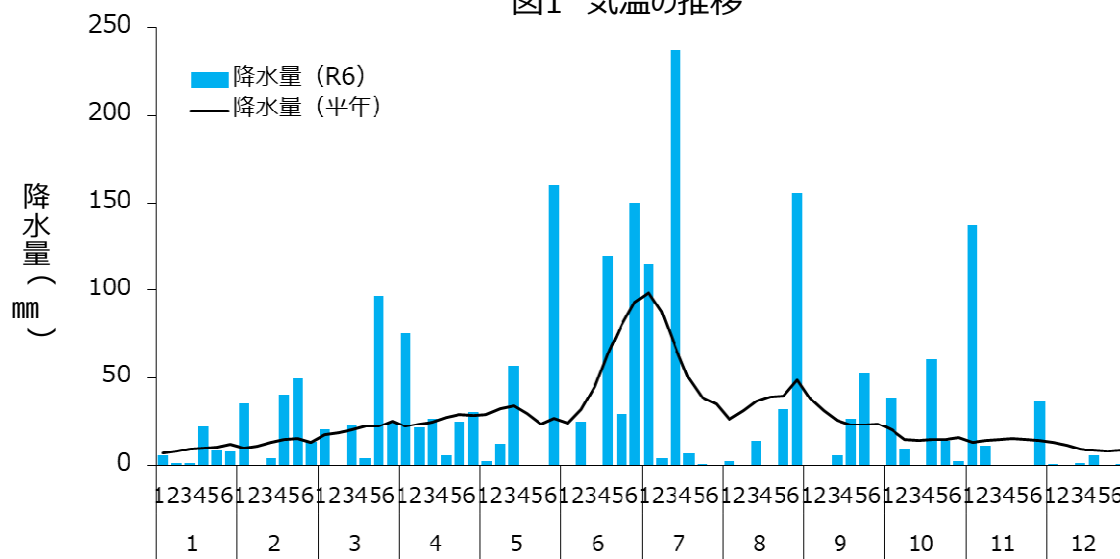


図2 降水量の推移

●気象災害対策の発信

- 大雨に対する農作物等への技術対策 : 6月27日、11月 1日
- 高温に対する農作物等の技術対策 : 8月 2日、8月14日
- 台風接近に伴う農作物等への技術対策 : 8月27日
- 農作物等の寒害及び雪害の被害防止に向けた技術対策 : 1月 8日

(3) 主な展示ほ概要

作物	課題	結果の概要
水稲	環境にやさしい緩効性肥料を用いた水稲「ツクシホマレ」の生育および収量性の検討	被覆崩壊性の高い緩効性肥料を施用した水稲の生育および収量性は慣行肥料と同等であり、普及性は高いと考えられた。
水稲	水稲用新規除草剤の効果検討	クサネムに対して優れた効果を示す成分を含んだ薬剤について、現地慣行剤と比較して試験を行った。大型化したクサネムが枯死するなど効果が確認された。
水稲	久留米市における乾田直播の検証	久留米市で乾田直播の試験を3年間行った結果、収量は移植栽培と同等～1割減となった。雑草が多発しやすいため、防除の徹底が必要となる。
大豆	大豆における効果的な地下水位制御技術確立に向けた検証	近年の大豆の低収要因である乾燥対策を目的として、FOEASを用いた試験を行った。地下水位30cmで試験した結果、稔実莢数は減少したが大粒比率が増加し、収量は同等となった。
麦	オオムギ網斑病防除の効果検証	近年、多発しているオオムギ網斑病に対する防除効果の検証を行った。出穂前の防除により、無防除区と比較して2倍以上の収量を確保することができ、費用対効果が非常に高いことが確認された。
葉菜類	ホウレンソウの緩効性堆肥入り肥料の適合性の確認	緩効性堆肥入り肥料による生育および収量性を検討した。慣行の化成肥料と比較して、生育速度、収量に遜色なく、10a当たりのコストは1,600円程度安くなり、肥料コストの削減効果が認められた。
葉菜類	コマツナのナメクジ類に対する薬剤防除効果	ナメクジ類に対する防除薬剤の実用性を検討した。無処理区はナメクジ類による食害がみられたのに対し、試験区では食害がみられず、薬剤の防除効果が認められた。
葉菜類	リーフレタスのアブラムシ類に対する新規登録薬剤の防除効果	アブラムシに対する新規薬剤の防除効果を検討した。アブラムシの発生がみられず効果は判然としなかったが、葉害等はみられず、ローテーションの一剤として実用性はあると考えられた。
葉菜類	リーフレタスのバイオスティミュラント資材を活用した高温対策	夏季育苗期のバイオスティミュラント資材処理が、苗および定植後の生育に及ぼす影響を検討した。今年度の高温下の定植では、かん水不足により苗の3割程度が枯死する結果となった。
葉菜類	ブロッコリーにおける再生リン酸利用肥料(基肥一発型)の検討	再生リン酸を利用した低価格肥料の実用性と肥料コスト削減効果を検討した。化学肥料と比較して、生育スピード、収量に遜色なく、10a当たりのコストは4,000円程度安くなり、肥料コストの削減効果が認められた。
葉菜類	アスパラガスにおける遮熱フィルムの昇温抑制効果の検証	夏季の高温による若茎の開きや曲がり、裂開などの品質低下が問題となっているため、遮熱フィルムによる昇温抑制効果を検証した。その結果、ハウス内温度は抑制されたが、収量や品質の差はほとんどなかった。
果菜類	イチゴにおける各種天敵資材の防除効果の検証	ハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類に対する天敵資材の防除効果について検証中。株冷入庫前のミヤコカブリダニ放飼によりハダニ類の発生を抑えられている。コレマンアブラバチ放飼によりアブラムシ類の発生を軽減できている。
果菜類	イチゴのジベレリン茎葉散布効果の検証	2週間間隔で茎葉散布(10ppm,7.5ppm,5ppm)を行い、生育の違いを調査中。
果菜類	イチゴのリンカリ資材の基肥施用による2番果房花芽分化対策	基肥に施用し、2番果房以降の状況を調査中。
果菜類	イチゴの環境測定装置によるハウス内環境分析及び収量向上の取り組み	環境測定装置を設置し、高収量者の生育・ハウス内環境の分析を実施中。JAにじ:15名、JA福岡大城城島地区:12名
果菜類	イチゴの育苗期におけるバイオスティミュラント資材の活用	イチゴの育苗期におけるバイオスティミュラント資材の処理がクラウン肥大、根の充実、花芽分化に及ぼす影響を調査した。普通作型において花芽分化がやや早くなった。
果菜類	イチゴの2次育苗による2番果房花芽分化対策	2次育苗(株冷4型出庫後2週間再育苗した後に定植)による生育調査を実施中。
果菜類	イチゴの紙ポット育苗による頂果房花芽分化対策	紙ポットによる生育調査、花芽分化状況を調査中。

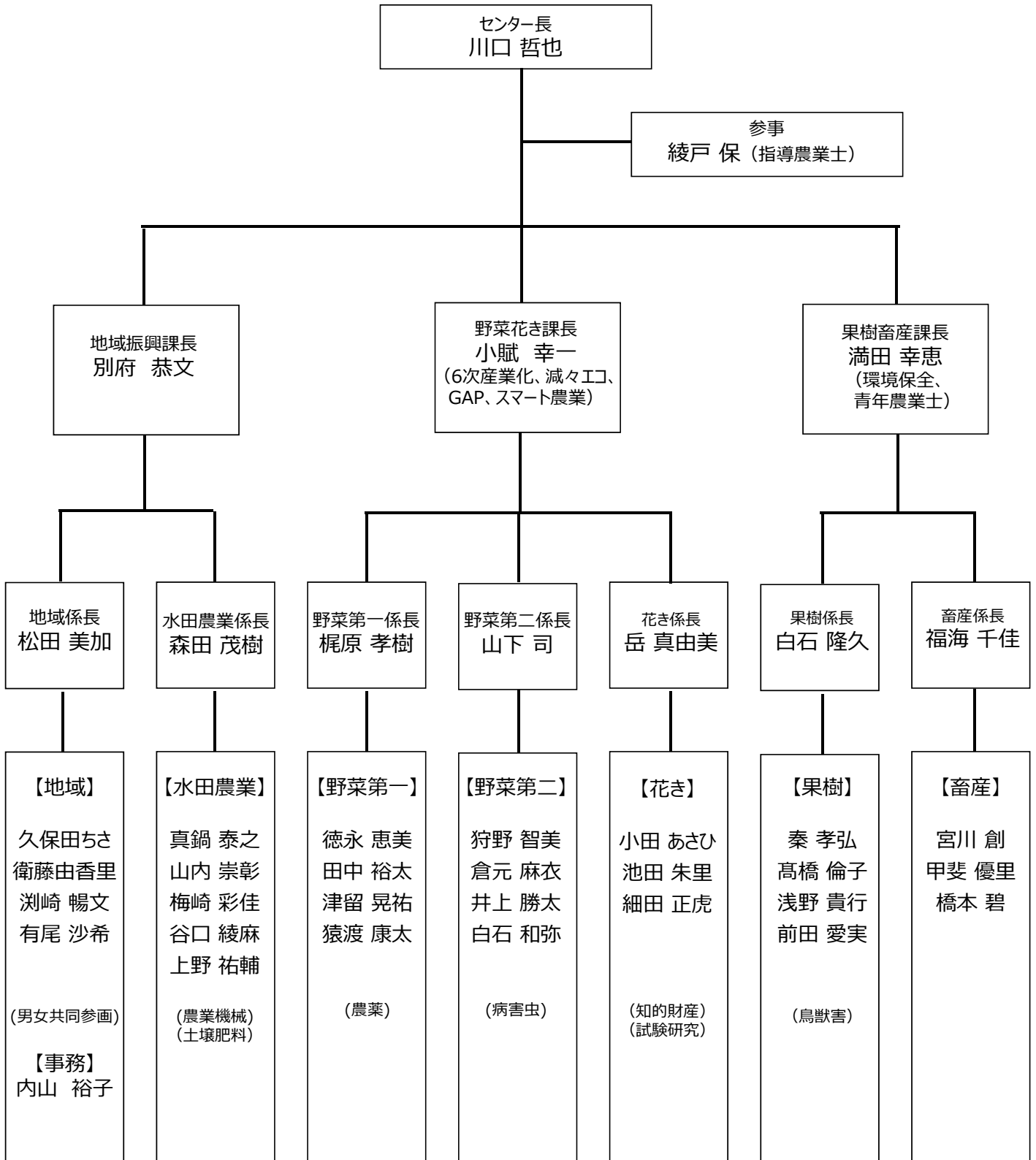
作物	課題	結果の概要
果菜類	イチゴの摘果個数の違いによる生育状況の検討	摘果の程度による生育状況、収量の調査を実施中。
果菜類	イチゴの大気濃縮CO ₂ 局所施用の効果検証	大気濃縮CO ₂ 発生装置による生育の違いを調査中。
果菜類	イチゴ及びキュウリにおける農薬練り込み防虫ネット等の害虫侵入防止効果	農薬の練り込まれた防虫ネット及び黒色防虫ネットを設置したハウスにおいて、ハウス内外に黄色粘着シートを設置し、侵入頭数を調査中。
果菜類	トマト及びキュウリのコナジラムミ類に対する微生物農薬の防除効果	糸状菌を有効成分とする微生物農薬のコナジラムミ類に対する防除効果は判然としなかったが、感染した虫の死骸は確認された。
果菜類	トマトの灰色かび病に対する薬剤による防除効果の検証	試験薬剤の灰色かび病に対する防除効果が認められた。
果菜類	トマトの基肥一発肥料を用いた試験	1年目の試験では生育は慣行区と同等で、10aあたりのコストは15,000円程度安かった。2年目の試験では概ね慣行区と同等の生育となっている。
花き	カーネーションの遮光塗布資材による高温対策の検証	梅雨明け後、ハウスの屋根部に熱線を反射する遮光剤を塗布した結果、ハウス内の8月の最高温度は慣行区よりも平均2.1℃低下し、出荷開始が慣行区に比べ9日早くなった。
花き	電照ギク親株ほ場における太陽光パネルを活用した黄色LEDによるヤガ類防除の検証	電源確保が困難なほ場に太陽光パネルを設置した結果、黄色LEDは期間中継続して点灯することを確認でき、慣行区よりも食害株が減少したため、太陽光パネルの活用は実用性があることを確認した。
花き	トルコギキョウの施肥方法が品質に及ぼす影響	浸水被害が多発する地域において、適切な施肥方法を検討した。2回目の追肥時期を慣行よりも1週間早める、あるいは慣行よりも追肥量を半減することで、品質に影響を及ぼすチップバーン発生率を約10%低減できた。
花き	バラの天敵利用によるアザミウマ防除の効果の検証	スワルスキーカブリダニと粘着板トラップを組み合わせたIPM防除体系によるアザミウマ類の防除効果を検証した。薬剤使用回数を40%削減してもアザミウマ類の増殖が抑制される可能性が示唆された。
花き	キクの立枯病に対する酸素供給剤の効果の検証	浸水被害が多発する地域において、酸素供給剤がキクの立枯対策に有効か検証した。今年度は浸水被害が無く、立枯率は慣行区と同程度であったが、処理区の根長が長くなった。
果樹	ナシ「玉水」の環状剥皮処理による果実肥大促進効果の検証	側枝基部への環状剥皮処理による果実肥大促進の傾向がみられたとともに、GA処理との併用で更なる肥大促進効果が示唆された。また、環状剥皮処理は不定芽を多数発生させたことから、側枝更新技術として有効である。
果樹	ブドウ「巨峰」のアブシジン酸液剤処理による着色促進効果の検証	着色始期にアブシジン酸液剤を果房に散布した結果、着色促進効果が認められた。一方、熟期促進効果はなく、糖度や酸含量の上昇はみられなかった。
果樹	ブドウ「ピオーネ」における摘房時期の違いが果実品質および樹勢に及ぼす影響	果実の養分吸引力を高めるため、摘房時期を従来より遅らせた結果、着色や糖度の向上がみられた。また、新梢伸長が抑制され、枝管理の省力化につながった。
果樹	ブドウの黒とう病およびモモのせん孔細菌病に対する薬剤の防除効果	試験薬剤は、現地慣行薬剤と同様の防除効果が認められた。
飼料作物	水田におけるアルファルファ栽培の可能性検討	年4回の収穫を行い、6月の1番草収量は、400kg/10a(乾草)であった。2～4番草はヒエ等の雑草が優占した。
飼料作物	飼料用トウモロコシにおけるツマジロクサヨトウの防除試験	飼料用トウモロコシを食害するツマジロクサヨトウに優れた活性を持つ薬剤の効果を検証した。収量は慣行区と同様で、食害による大幅な減収は見られなかった。
飼料作物	イタリアンライグラス令和5年新発売品種の栽培試験	硝酸態窒素含有量及び倒伏度については従来品種と差異はなかった。従来品種と比較して生草収量が少なかったものの、乾物率が高かったため、乾物収量は同程度となった。

(4) 普及指導センター活動情報一覧

普及指導センターがホームページなどで提供した資料です。

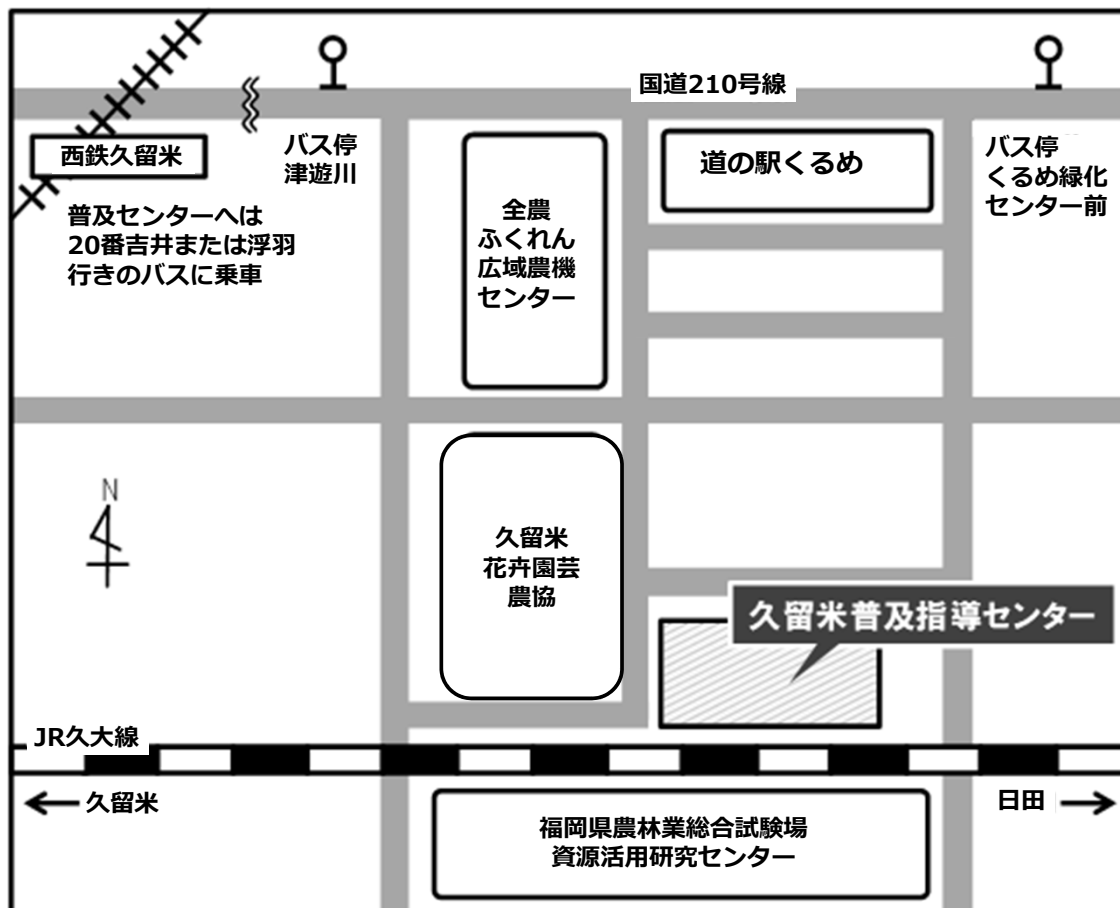
番号	内容	担当係	発信日
1	カキ「秋王」の高品質・安定生産を目指して！	果樹	5月10日
2	福岡なしの生産拡大を目指して！	果樹	5月16日
3	「あまおう」栽培技術の早期習得を目指して(夏)	野菜第二	6月27日
4	トルコギキョウの出荷量向上を目指して	花き	7月 1日
5	定年帰農者向けの「水稻栽培の基礎」勉強会を開催	水田農業	7月 3日
6	花き振興会議および視察研修会を開催	花き	7月23日
7	新規就農担当者会議を開催	地域	7月31日
8	農業経営管理力向上のための研修会を開催	地域	8月23日
9	和牛改良講習会・現地検討会を開催	畜産	8月27日
10	ぶどう・なし品評会が開催されました！	果樹	8月29日
11	水稻の可変施肥試験を実施	水田農業	8月27日
12	施設キュウリの防虫ネット試験を実施中	野菜第二	9月11日
13	女性農業者が農業機械について学ぶ	地域	9月17日
14	「あまおう」栽培技術の早期習得を目指して(秋)	野菜第二	10月 2日
15	ぶどうの「土づくり」講習会を開催	果樹	10月16日
16	サラダ菜生産者の経営相談会を開催	野菜第一	10月17日
17	環境にやさしい米づくりをめざして	水田農業	10月29日
18	4Hクラブ員が保育園児の芋ほり体験を支援	地域	10月30日
19	電照菊部会の後継者に研修会を開催	花き	11月14日
20	新規就農者グループが自主勉強会を開催	地域	11月15日
21	繁殖雌牛一斉巡回を実施	畜産	11月14日
22	ハウレンソウのべと病対策を地域一丸で推進	野菜第一	11月26日
23	魅力ある産地の花で観光客をおもてなし	花き	11月27日
24	集落営農組織のリーダーが先進法人を視察調査	水田農業	12月 1日
25	地域農業をけん引する生産者を目指して！	畜産	12月 5日
26	トマトの収量向上を目指して	野菜第二	2月 6日
27	農福連携にチャレンジ！	地域	2月14日
28	人材不足解消の研修会を開催	水田農業	2月25日
29	生産者グループ経営方針策定研修会を開催	野菜第一	3月12日

(5) 普及指導センターの活動体制



福岡県朝倉農林事務所久留米普及指導センター

● アクセス



交通 西鉄バス 津遊川下車、徒歩10分
久留米ICから車で15分

所在地 久留米市山本町豊田1506-19

電話 0942-47-5101

FAX 0942-47-5105

福岡県行政資料

分類番号 PA	所属コード 4703224
登録年度 06	登録番号 0001